

ぼくが、初めてイモリをつかまえたのは、いなかのおばあちゃんの家、田んぼの用水路でした。イモリは、とてもたくさん用水路のどろの中や上にいました。用水路は深かったので、あみでつかまえることができたが、おばあちゃんが、

「そんなにたくさん持って帰って、死んじゃったらかわいそうだから、カエルだけ持って行って、あとはがしてやりん。」

と言いました。だからぼくは、一ぴきだけ選んで、あとのイモリはがすことにしました。しつぽが短いイモリと長いイモリがいましたが、太いしつぽがよかったです。それを選んで家に持ち帰り、水そうに入れてかうことにしました。

図かんで、イモリのことをいろいろ調べてみると、イボイモリや二ホンイモリがいることを知りました。ぼくがつかまえたのは、二ホンイモリでした。イモリと同じ両生類には、カエルやウーパールーパーがいます。イモリのじゅ命は、十年から十五年で、とても長生きです。また、イモリにはフグと同じどくがあるのです。イモリを食べる動物はほとんどいません。

ぼくは水そうに、イモリがかくれる場所と陸地を作りました。一週間ほどしたら、イモリがたまごを産みました。二ミリくらいの丸い形でした。よく見ると、白色と黒色に分かれています。たまごは一週間くらいで、ふ化しました。しかしすぐに死んでしまいました。

た。原いんは、水温と水のよれではないかと思いました。調べてみると、水温は二十度くらいがいいそうです。

二か月たつてから、またイモリをとりに行きました。二ひきつかまえました。一ぴきはふにやふにやになっていました。おばあちゃんが、そのイモリを連れて行って元の場所に返しました。あとで調べてみましたが、ふにやふにやになった原いんは分かりませんでした。もう一ぴきのイモリを調べたら、二ホンイモリ（アカハライモリ）でした。さらに、しつぽが切れても再生することが新しく分かりました。トカゲも再生しますが、イモリはしつぽのほねまで再生するそうです。

自然の中では、イモリのえさは「おたまじゃくし」「ミミズ」「小さなこん虫」などを食べているそうです。ぼくは、かんそうしたミズを買ってきて、あげています。イモリは、口を大きく開けてほ食しています。他にもあげられるものがないか、調べようと考えています。

イモリは、ふだん水の中にいたり陸に上がったりにいます。ぼくは、イモリがずっと陸の上にいることが心配でしたが、体がかわくと、自分で水の中に入っているようです。

イモリをかい始めてから二年たちますが、大きさに変化がありません。体長は二センチくらいのび、体の太さは一回り大きくなりました。どこまで大きくなるのか楽しみです。いとこのお兄さんも、ぼくぐらいの年のときにイモリをかっていて、二十年以上生きたそうです。ぼくは、それよりもっと長生きさせたいです。ちなみに「オオサンショウウオ」は、三十年生きるそうです。

ぼくがかっているイモリのとくちょうは、おなかの色は赤色で、

手の指は四本、足の指は五本です。他にも、背中の色は真っ黒です。目も黒色ですが、どこを向いているのか分かりません。ときどき、ぼくの指を食べようとしてきます。がまんはしますが、歯がないのでいたくもかゆくありません。お母さんは、イモリが全部同じに見えると言いますが、ぼくにはそれぞれのちがいが、はっきりと分かります。なぜなら、大きさがちがうし、背中に線があつて分かりやすいからです。

一度だけ、イモリたちを川に泳がせに行つたことがありました。みんな、しっかり泳いでいました。川で泳ぐか心配でしたが、イモリたちは平気でした。またいつか連れて行ってあげたいです。